

様式(細則 6-2)

令和7年2月26日

浜田市議会議員 笹田 卓 様

議員名 肥後 孝俊

## 研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

### 記

1. 研修名 第1回九州議員フォーラム(オンライン特別版)  
テーマ ゆるやかなつながりが地域を救う」星合隆成  
P2P・SCB 提唱者/崇城大学 IoT・AI センター長/崇城大学情報学部教授
2. 受講の目的(市政との関連など)  
新たなつながりの手法を学び、地域で実践することで、地域をより良くするため。
3. 期間(移動日を含む)  
  
令和7年2月15日(土) 14:00~16:00
4. 経費 (講師体調不良のためオンライン開催に変更) 0円
5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など  
自治体財政について知っているようで知らない議員たち。予算書を読み、質疑を通じてチェック機能を果たしているつもり議員。一方、行政は行財政改革と称して職員数や公共施設を減らすことに取り組んでいる。  
しかし、自治体の財政を理解し、目指すべきまちづくりへの予算配分を学び実践することで、新しい視点が生まれ、まちづくりがより良い方向へと変わる。
6. 研修内容  
(詳細は別紙のとおり)



今回の研修は、本当に新しい発見の連続でした。特に印象的だったのは、これまでの「課題解決型」アプローチに加えて、「イノベーション型課題解決」という考え方を取り入れることで、地域社会の発展と新たな価値創造が大きく進む可能性があるということです。

#### ➤ 課題解決型アプローチの限界（縦串）

これまでの行政の課題解決は、目の前の問題にすぐ対応し、短期的な成果を出すことに重点が置かれていたように思います。確かに、既存の縦の繋がりを活かし、リソースを集めて効率的に施策を行うことで、一定の成果はありました。しかし、目標を達成すると活動が停滞してしまい、持続的な成長には繋がりにくいという課題が浮き彫りになっていたのでないでしょうか。これまでの地方創生が抱えていたボトルネックも、この辺りにあったのではないかと学びました。中央集権的な考え方や、同じような考え方ばかりが重視されることによる弊害もあったように思います。

#### ➤ イノベーション型課題解決の可能性（横串）

一方、イノベーション型課題解決は、多様な価値観を持つ人々との横の繋がりを重視し、新しいアイデアを生み出すアプローチです。研修では、Appleの「生活環境全体の変革」やスターバックスの「第三の空間」といった事例を通して、概念レベルでの連携がいかによりイノベーションを促進するかを学びました。例えば、PCの性能をアピールするのではなく、その製品を使うことで生活がどのように変わるかをPRする。あるいは、単にコーヒーを売るのではなく、居心地の良い「第三の場所」を提供する。これらの事例は、本当に納得できるもので、強く共感しました。

#### 【考察】（行政への応用）

地域行政においても、このイノベーション型課題解決の手法を取り入れることで、単なる課題解決を超えて、地域の特性を生かした持続可能な発展を実現できるのではないかと学びました。今後は、地域住民、企業、NPO、教育機関など、多様な主体が繋がる場を創出し、異なる分野との連携を強化していきたいです。そのためには、中間支援組織などと協力し、共創を促進するネットワーク型の取り組みを進めることが重要だと考えています。また、短期的な課題解決だけでなく、地域の未来を見据えた長期的なビジョンを持った政策立案が必要です。新しい価値観やライフスタイルを生み出すための支援をしていきたいと考えています。そのためには、デジタル技術の活用が不可欠で、P2Pネットワークやブローカーレス理論を更に学び、地域の課題解決に応用し、行政サービスの効率化を図る提案をしていきたいです。データの利活用を通じて、住民参加型の行政運営を促進する後押しも取り組みたいです。今回の研修で得た学びを活かし、地域社会の発展に貢献できるよう、積極的に行動していきます。